

# 高等学校 書道 教科書のご案内

## 編集の趣旨と特色

- 新刊「書Ⅰ」〔書Ⅰ006-901〕
- 「書Ⅱ」〔書Ⅱ702〕
- 「書Ⅲ」〔書Ⅲ702〕







# 表現編

「私の表現を知る」書

自分の力で臨書できるようにするため、  
視点を持って、古典の書風を読み解いてゆく。

1

## 1 編集のポイント

### 見開き完結のシンプルな紙面

図版を「見て書く」ことに集中するため、表現編の各ページには、二文字の臨書に必要な情報だけを、コンパクトにまとめました。

## 2 編集のポイント

### 三つの視点を常に意識する

図版のどこを見たらよいかわからないという生徒は、まず、字形、構成、用筆・運筆の「三つの視点」を意識することから始めましょう。

## 3 編集のポイント

### 表現と鑑賞の往還学習

拡大と原寸。同じ古典でも、大きさが違うと書風が違って見えたりしませんか。多くの文字を見ることによつて、いろいろな特徴が見えてきます。



p014-015 (上段 p012-013 の次のページ)

2



■ 書風を読み解くポイント  
上段の図版に、左右の中心線と、それぞれの文字の外形を口などで書き込む、字形や構成が見えてきます。また、横画の起筆の角度や、線の太さ、大と道の右払いの長さや角度など、孔子廟堂碑の用筆・運筆の特徴が表れています。



臨書の時に困ったところを読んでみてね。

012

## 孔子廟堂碑

漢字の書  
「孔子廟堂碑の表現は字はつ」  
唐 虞世南(五五八〜六三〇)  
唐 六八〇〜六三〇年頃

誰もが認める整った楷書。揺るぎない美しさと品格の高さは、楷書の王道です。

孔子廟堂碑ってなに？

孔子廟堂碑は、唐の太宗が、都長安(現在の西安)に孔子の霊を祀る廟を再建した際の記念碑です。太宗の側近であった虞世南が勅命を受け、文を作り揮毫しました。

■ 012 孔子廟堂碑は151ページ

虞世南ってどんな人？

虞世南は、南朝の名門の家柄に生まれ、幼い頃から学問に励み、唐の太宗に仕えました。初唐の三大書家と呼ばれる書家の一人で、太宗は、皇太子の時代から虞世南を信任し、彼の死後、「書を論じる相手がいない」と歎いたといわれています。

■ 013 初唐の三大書家は113ページ

孔子廟堂碑の書風の特徴は？

伸びやかな横画や右払いが特徴で、力を含んだ強い線質、温雅な趣いと気品の高さにより、古来より高く評価されています。

■ 014 書風について152ページ

3



大道(集字 拡大) 三井記念美術館蔵拓

013

二次元コード  
学習に役立つ情報を  
webサイトで見る  
ことができます。

〈筆順アニメーション動画〉

筆順 中心線 外起線 余白線



↑ どんな時に試してみる？

- ・筆順を知りたい
- ・紙面の中心線がどこか知りたい
- ・文字の外形を知りたい
- ・紙面の余白を把握したい

- 大道 教科書 ▶ P013
- 清泉 教科書 ▶ P017
- 無門 教科書 ▶ P021
- 武道 教科書 ▶ P025
- 令和 教科書 ▶ P029
- 永和 教科書 ▶ P031

各二次元コードの収録内容は、本パンフレット 10 ページを参照。

## More モアマーク

もっと知りたいという生徒のために

このページの臨書に必要な情報だけでなく、古典の作者や内容、歴史、周辺文化など、生徒の興味・関心に応じて授業で取り上げてほしい内容が載っているページです。参照してみてください。

# 鑑賞編

見る・感じる・知る 書

## 丸覚えする知識としてではなく、自分の見方、考え方を育てる鑑賞をコツコツ積み重ねていく。

漢字の書

楷書 隷書 草書 行書 楷書

### 楷書を知る 漢字のプラットフォーム

読み書きされ続けて約千五百年

漢字は、各時代を生きた人々によって、読みやすく、美しく書くための工夫が加えられてきました。漢字に始まり、隷書・草書・行書を生み出し、楷書を最後に、新たな書体を生みだしてまいりました。今から千五百年以上前に生まれた楷書は、現代人にも読み書きしやすい意味において、時代を超えて多くの人がクセする漢字のプラットフォームといえるでしょう。



- ① 漢字の五の書体の中でもっとも遅れて成立した書体
- ② 成立から千五百年以上経った今も使われ続けている
- ③ 三過折の筆法、右上がりとの均衡が特徴

右上がりとの均衡  
楷書は私たちが生きてきた身近な書体ですが、その姿ができたのは、中国の三國期です。そしてこの楷書、実は漢の五の書体の中で最後に成立した、もっとも歴史の浅い書体なのです。楷書が生れる時代は、公用書体としての隷書とともに採用書体として行書や草書が使われていた書体のひとつともいえる時期でした。その後、楷書は徐々に人々へ、実用場面でも使われていた行書を整えて書くことになり、隷書に代わる書体として楷書が生れるようになります。楷書が生れる過程を示す遺品の出土が分けては、今後の新たな発見が期待されます。篆書と隷書は、曲線的な道線の多い、均質な大きさの点画を等間隔に配置するとい、いわば原始的な文字です。楷書は、(起筆→ト)・(送筆→ス)・(収筆→ト)のリズムや筆速を三過折の筆法で、右利きの人であれば、右手の自然な運動によって点画が右上がりになるという特徴があります。つまり楷書は、右上がりの点画が互いに引き合う構図によって、力の均衡という知性(三過折の合理性)を備えたこと、千五百年以上の間人々に使われ続ける書体となったのです。

#### 楷書の成立



簡略に速くから整えて書くへ  
もっとも遅れて成立した書体  
三國・呉の武将末然(182-248年)の名刺。後漢の末になると、隷書の実用書体である草書や行書が一般化し、隷書はもはや時代遅れとなり、次第に特別な場面だけに用いる書体となっていく。楷書はその頃、実用書体を整えて書くこととする意識から、隷書に見られなかった起筆・送筆・収筆の構成を持つ書体として発達し、三國期には、①のように現代の姿に近い楷書が成立していた。



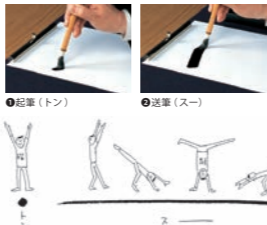
#### 楷書による芸術表現

少壯如大人  
馮廣興の楷書は、北魏の楷書習った独自の楷書のほか、その筆法を取り込んだ篆書や隷書においても、近代的な書風を打ち立てた。

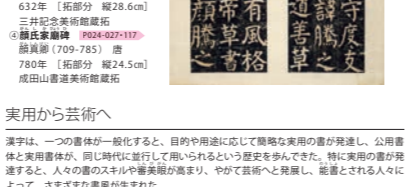
趙之謙  
北魏の楷書を習った独自の楷書のほか、その筆法を取り込んだ篆書や隷書においても、近代的な書風を打ち立てた。



#### トンスー・トンのリズム



#### 楷書の洗練と書風の展開



楷書の名称の由来  
楷の木にちなんでとも  
楷書は、唐代頃まで、正書・真書などと呼ばれた。他にも呼び名がいくつかあるが、正書・真書とは、正式書体という意味。「楷」とは、模範、規正という意味。俗体は多岐にわたるが、楷の木が、直角に伸びた枝、葉の形も整然としていることから、これにちなんでともされる。

## 1 編集のポイント

### 書体の特徴を様々な角度から

書体には、機能性や運動性、時代性や芸術性など、篆書・隷書・草書・行書・楷書それぞれの特徴があります。興味を持ったことから知識を深めていけるとよいのではないのでしょうか。

表現編 p028-029



## 2 編集のポイント

### 野生味あふれる北魏の楷書

中国三大石窟の一つで、世界遺産にも登録される龍門石窟、山東省の雲峰山、天柱山、太極山の山の岩肌には、造像や摩崖という野外芸術が、今もたまたま残っています。



始平公造像記 全拓



龍門石窟古陽洞

龍門造像記  
後漢の滅亡後約百年間の中国は、魏晉南北朝と呼ばれ、各国が並立する動乱の時代でしたが、多民族がまじり合う状況の中で、多様な思想や文化が花開きました。北魏の北朝では、第六代文帝(孝文帝)が、平城(現在の大同)から洛陽(現在の洛陽)への伊水の両岸の山にたてんの遷都がなされました。これを龍門石窟といいますが、多額の資金には多くの仏像が刻れ、その際に像を通じた出来が刻れました。龍門石窟の中でも最も古いと思われる古陽洞には、大小の造像が数多く刻られています。それそれ書風は異なりますが、龍門様式と呼ばれる鋭角的な美しい筆と、右上がりの力強い構成が特徴です。

## 3 編集のポイント

### 表現と鑑賞の往還学習

表現編で学習した古典も、現在どんな場所にもどのように保管されているのかを知ると、今に至る歴史や文化が見えてきます。



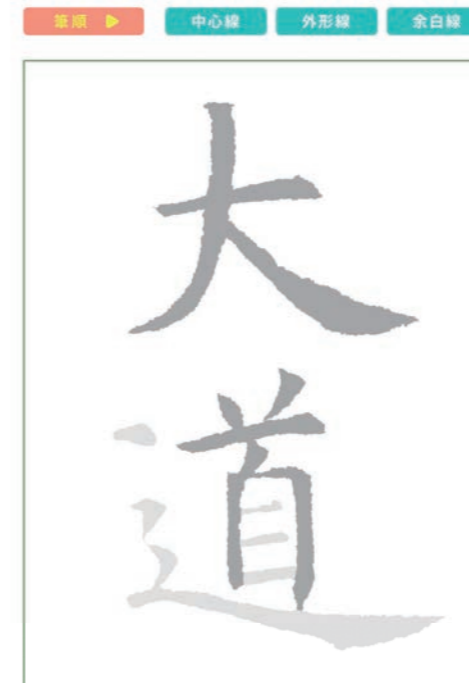
行をみる線・リズム・形

# 単元構成と学習内容および掲載古典

単元	表現編「私」の表現を知る書	鑑賞編 見る・感じる・知る書	
プロローグ	筆を持つ、その前に		
コラム	書の表現、それは「私」の可能性		
●書へのいざない	書体はなぜ生まれるのだろうか 文字が無い日常を、想像できますか？	見て知る 知って見る	
●漢字の書	楷書 古典に学ぶってどういうこと？ 大道・孔子廟堂碑 清泉・九成宮醴泉銘 無門・雁塔聖教序 武道・顔氏家廟碑 令和・牛欄造像記 永和・鄭義下碑	楷書を知る 漢字のプラットフォーム 野生味あふれる北魏の楷書 南北の融合により洗練を極めた隋・唐の書 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘 雁塔聖教序 顔氏家廟碑 小さな楷書の世界	
		行書を知る 次へとつなげる気持ち 蘭亭序の魅力 神龍半印本蘭亭序 唐の文化の吸収と日本の書の芽生え 風信帖 文化の国風化と日本独自の書の確立 二人の書のレジェンド王羲之と顔真卿 詩を自書して心情を表現	
		草書を知る 省略の極み	
		隷書を知る 直線化と波勢の誕生	
		篆書を知る 漢字の夜明け	
		私の書の証を示す落款と印 私を表す印を刻ろう	
		創作への第一歩をふみ出そう 創作のヒントを与えてくれる作品たち	
		草書	心動・真草千字文
		隷書	有志・曹全碑
		篆書	金石・皇帝・泰山刻石
篆刻	私の書の証を示す落款と印 私を表す印を刻ろう		
漢字の書の 作品制作	創作への第一歩をふみ出そう 創作のヒントを与えてくれる作品たち		
●仮名の書	筆の穂先の弾力を感じてみよう 言葉を連綿しながら書こう リズムよく平仮名を書こう 蓬萊切 高野切古今和歌集〈第三種〉	仮名を知る 和の言葉を表す文字 古筆を知る 王朝文化へのあこがれ 文字を見る 仮名文字の姿 行を見る 線・リズム・形 現存最古の古今和歌集 高野切古今和歌集〈第一種〉 紙面を見る 小さな紙に舞う散らし書きの美	
		創作への第一歩をふみ出そう 創作のヒントを与えてくれる作品たち	
●漢字仮名交じりの書		漢字仮名交じりの書を知る 読みやすさと美しさの両立 漢字と仮名の調和 空間に遊ぶ言葉 自分自身の表現を求めて	
	漢字仮名交じりの書の 作品制作	創作への第一歩をふみ出そう 線や字形は言葉の世界をひらく 間合いやリズムに気持ちをのせて 創作のヒントを与えてくれる作品たち	
	生活の中の 書	心を込めて書く 刻字で表札を作ろう	
エピローグ		私と書とのこれから	
資料 書の文化	姿勢と執筆法 書写から書道へ 臨書から創作へ 用具・用材	碑と拓本 さまざまな楷書古典 さまざまな行書古典 書の鑑賞形式 日本と中国の書道史略年表 書道用語集 中国・日本書道史関係地・資料参考地図	

# 二次元コード収録内容&教科書掲載ページ

## 〈筆順アニメーション動画〉



- 大道 筆順と書風を読み解くヒント ▶ P013
- 清泉 筆順と書風を読み解くヒント ▶ P017
- 無門 筆順と書風を読み解くヒント ▶ P021
- 武道 筆順と書風を読み解くヒント ▶ P025
- 令和 筆順と書風を読み解くヒント ▶ P029
- 永和 筆順と書風を読み解くヒント ▶ P031

## 〈運筆動画〉



- 篆書の横画の用筆 ▶ P047
- 隷書の起筆と波磔の用筆 ▶ P045

## 〈篆刻動画〉



- 刻し方（白文・朱文の運刀） ▶ P051
- 白文印「陸」の製作 ▶ P051

## 〈写真資料〉



- 筆・墨・硯・紙のおもな製法（動画） ▶ P149
- 墨の磨り方（動画） ▶ P145
- 拓本の採り方（動画） ▶ P151
- 用具・用材の扱い方 ▶ P145
- おもな硯の種類 ▶ P149
- 墨色を探る ▶ P149
- さまざまな筆、筆に使われるおもな動物の毛 ▶ P149
- さまざまな仮名の料紙、仮名の料紙の大きさ ▶ P149

## 〈pdf 資料〉

- 蓬萊切の料紙 ▶ P063
- はがきの書き方 ▶ P079
- 封筒の書き方 ▶ P079
- 手紙の書き方 ▶ P079
- 書を収蔵する日本のおもな美術館・博物館 ▶ P165

## 〈外部サイト〉

- 美術館・博物館ホームページ

# 書 I 指導資料 [書 I 006-901]

## 『書 I 指導資料』セット

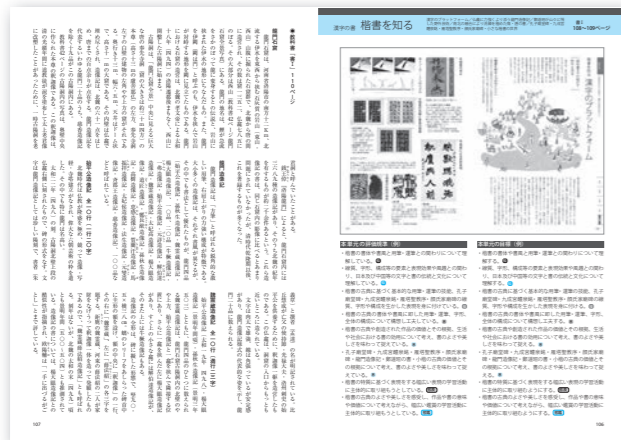
価格 未定

- ①『書 I』指導資料（本体）160 ページ（予定）
- ②評価ワークシート集（48 シート）
- ③サポートデジタルコンテンツ  
【収録内容（予定）】  
①教科書素材集 / ②評価ワークシート集 / ③準拠シラバス・評価規準例  
④鑑賞学習用映像教材 / ⑤筆・墨・硯・紙の製法 / ⑥拓本の採り方
- ④指導者用デジタル教科書（予定）

令和 8 年 4 月発行予定



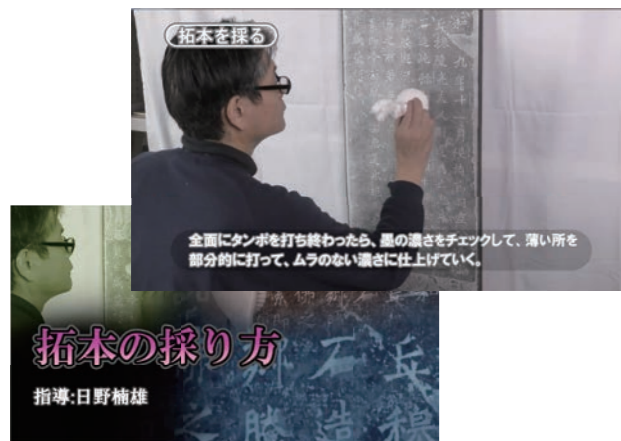
### ① 書 I 指導資料 (B5 判・160 ページ)



準拠シラバス・評価規準例をはじめ、年間指導計画、表現編と鑑賞編それぞれの授業だけでなく、両編を組み合わせた授業展開まで想定した学習指導案例を掲載します。

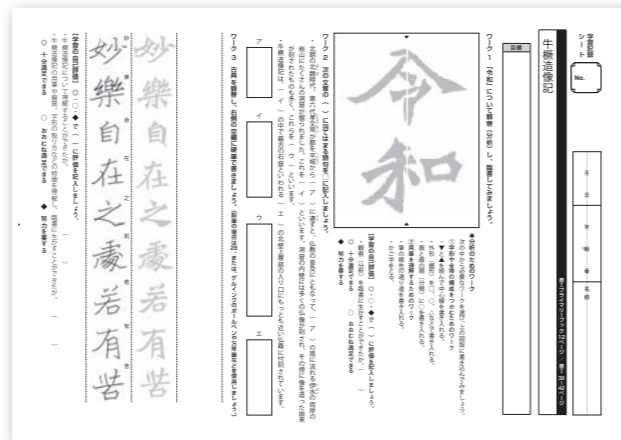
仕様：B5 判 2 色刷 160 ページ

### ③ サポートデジタルコンテンツ



インターネットブラウザを通して利用いただけます。教科書素材集、準拠シラバス・評価規準例は、WORD・EXCEL で開いてご使用ください。

### ② 評価ワークシート集 (B4 判・48 ページ)



全単元対応のワークシート集です。知識・技能の確認や振り返りだけでなく、思考力・判断力・表現力を養うためのワークシートです。表現と鑑賞の往還学習にも最適です。

仕様：B4 判 1 色刷 24 枚（両面 48 ページ）

### ④ 指導者用デジタル教科書（予定）



『書 I』教科書紙面データを収録。画面左端のツールバーを利用することで簡単に操作できます。

令和 8 年度発行 書道新刊教科書 『書 I』 [書 I 006-901]

# 検討の観点と内容の特色

項目	観点	特色等
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。</li> <li>* 基礎的・基本的事項の理解や習得のため適切な配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書前半の表現編では、中学書写の内容の確認、漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の表現を中心とした書の基礎的・基本的事項の理解や習得を図る。</li> <li>・表現編、鑑賞編の各単元をさまざまに組み合わせることによって、書のおよや美しさを感じ、書の幅広い活動に取り組むことができる構成になっている。</li> <li>・冒頭プロローグ筆を持つ、その前に」と巻末の資料は、高校書道の学習を概観する内容と、中学書写の学習の確認で構成されており、生徒が見通しを立て、迷うことなく書道 I の学習に取り組めるように配慮されている。</li> <li>・「漢字の書」では、楷書と行書を中心にしながら、篆書・隷書・草書まで、各時代を代表する基本的な古典を書風や技法の偏りなく幅広く取り上げている。</li> <li>・「仮名の書」では、平安時代の優美な古筆を中心に、技法の特徴や美しさの要素を丹念に紐解くことで、漢字の書の対極とも言える仮名の書の美を理解できるように配慮されている。</li> <li>・「漢字仮名交じりの書」は、書が「言葉を書く」芸術であることを生徒が最も実感できる領域であり、先人たちのさまざまな創意工夫の跡を鑑賞し、自身の表現の構想と工夫に生かせるように配慮されている。</li> </ul>
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように配慮されているか。</li> <li>* 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。</li> <li>* 中高の接続に対する配慮がされているか。</li> <li>* 弾力的な取り扱いに対する配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半の表現編は、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づく表現の基礎的な技能を身につけ、意図に基づいて構想し表現を工夫することができる構成となっている。</li> <li>・後半の鑑賞編は、書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる構成となっている。</li> <li>・前半の表現編の「漢字の書」は、中学書写からの導入に始まり、楷書と行書の基本的な古典を臨書し、作品制作へとつなげる配列となっている。</li> <li>・後半の鑑賞編の「漢字の書」は、篆書・隷書・草書・行書・楷書が人々の営みの中から必然性を持って誕生したことを理解できるよう、書体の変遷順に配列されている。</li> <li>・前半の表現編の「仮名の書」は、仮名の基本用筆に始まり、平仮名単体、連綿の学習を経て、平安時代の端正な古筆を臨書し、作品制作へとつなげる構成となっている。</li> <li>・後半の鑑賞編の「仮名の書」は、漢字から仮名が生まれた経緯に始まり、平安時代のさまざまな古筆の美を、一字・一行・紙面全体へと目線を移しながら理解できるように構成となっている。</li> <li>・前半の表現編の「漢字仮名交じりの書」は、言葉と書の表現の関係を意識しながら、漢字や仮名の古典や名筆を参考にしたり、用具・用材の扱い方や紙面構成を工夫するなどして、自身の作品を制作するような構成になっている。</li> <li>・後半の鑑賞編では、漢字と仮名の調和したさまざまな表現を鑑賞することで、自分自身の表現とは何かを考えることができる構成となっている。</li> </ul>
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習意欲を高めるための配慮がされているか。</li> <li>* 用語・記号の取り上げ方や記述の仕方は適切か。</li> <li>* 生徒の自学自習への配慮や工夫がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前半の表現編と、後半の鑑賞編それぞれが、領域ごとに簡潔でわかりやすい構成になっている。</li> <li>・領域や書体ごとのインデックス、表現編と鑑賞編を往還する more マーク、リンクマーク、親しみやすいイラストやキャラクターの活用、よく練られた単元のタイトルや解説の言葉・表現など、生徒の理解しやすさと指導者の利便性の双方に配慮されている。</li> <li>・難解な語句や覚えたい用語にふりがなを付したり、巻末に「書道用語集」を設けるなど、自学自習にも配慮されている。</li> <li>・生徒が興味や疑問を感じる内容について、特に丁寧に解説されている。</li> <li>・タイトルや本文の文字は、古典の図版を際立たせるよう細いゴシック体で統一し、読みやすい文字の大きさや太さに配慮するなど、視覚的に理解しやすくする工夫がされている。</li> <li>・ICTを活用するための二次元コードを、見開きページの左上に統一して掲載することで、生徒や指導者の利用の便宜が図られている。</li> </ul>
印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</li> <li>* 環境保全や生徒の多様な特性に配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の図版は、原本に迫る臨場感で、美しく鮮明に印刷されている。</li> <li>・タイトル・本文とも、文字の視認性を重視した細いゴシック体フォントを使用し、紙面には適度な余白が確保されている。</li> <li>・全ての生徒が無理なく学べるように、文字の太さや大きさ、ふりがなの大きさ、行間、色使いが工夫されている。</li> <li>・臨書の際に細部まで近づけて鑑賞しやすいよう、左側のページに手本となる拡大図版を掲載し、半分折りたたみやすい製本とした。また、ページ数にも配慮し、蛍光灯等の反射の少ない紙を使用している。</li> <li>・ノドの部分の開きが大きい PUR 製本と、戻りの少ないしなやかな紙を使用している。</li> <li>・表紙・本文とも軽量の紙を使用することで、ページ数ほどの重量を感じない仕上がりに配慮されている。</li> <li>・表紙には、ポリプロピレンフィルム加工を施すことで、強度に配慮されている。</li> </ul>
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特色。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道 I の学習に必要な表現・鑑賞のための学習材が、系統的・段階的に取り上げられている。</li> <li>・表現編、鑑賞編それぞれの内容に、more マークやリンクマークなどの往還のマークを丁寧に付すことで、学習の深化と発展にも配慮されている。</li> <li>・判型を生かした迫力ある紙面、鮮明で美しい図版、活用しやすい折り込みページの配置により、知識・技能の習得からその活用まで、充実した学習が展開できるように工夫されている。</li> <li>・二次元コードによる動画解説や、筆順などのアニメーション動画により、ICT の効果的な活用による充実した学習活動が展開できる。</li> <li>・再生紙や植物油インキを使用することで、環境に配慮されている。</li> </ul>

## 『書Ⅲ』 検討の観点と内容の特色

項目	観点	特色等
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。</li> <li>* 基礎的・基本的事項の理解や習得のため適切な配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅰ・書道Ⅱの学習を受け、さらに表現と鑑賞の能力をバランスよく高め、个性的で創造的な活動が展開できるような学習材が十分に用意されている。また、巻末の書道史に関する資料や、近現代の書家の作品や生活の中に生きる書に触れることで、生涯にわたり書を愛好する心情を育てることに配慮されている。</li> <li>・臨書や鑑賞の学習材は、基礎・基本的な内容を踏まえつつ、書道Ⅰ・書道Ⅱで学んだ知識や技能を、自発的に広げたり深めたりすることができるような選定の工夫がされている。</li> </ul>
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。</li> <li>* 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。</li> <li>* 弾力的な取り扱いに対する配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の前半は「表現を知る 書」ということで、臨書の学習材や、創作の参考となるような古典・名筆を、系統的・発展的に掲載している。</li> <li>・「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」いずれも、個性的な古典や名筆が、それぞれ適切な分量で組織・配列され、表現と鑑賞相互に関連を図りながら学習が進められるように配慮されている。</li> <li>・教科書後半の「鑑賞を知る 書」は、近現代の書を中心に、言葉と表現の関係を意識しながら、表現につながる方法で鑑賞するような工夫がされている。</li> <li>・書論や書道史についても、生徒が理解しやすい内容を適切な分量掲載している。</li> </ul>
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習意欲を高めるための配慮がされているか。</li> <li>* 用語・記号の取り上げ方や記述の仕方は適切か。</li> <li>* 生徒の自学自習への配慮や工夫がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「表現を知る 書」「鑑賞を知る 書」の各単元が、知識と技能の習得の意欲を喚起するような、簡潔でわかりやすい表現と構成になっている。</li> <li>・領域や書体ごとに付したインデックス、往還を補助するマーク、親しみやすいイラストの活用、よく練られた単元のタイトルや解説の言葉・表現など、生徒の理解しやすさと指導者の利便性の双方に配慮されている。</li> <li>・ICTを活用するためのQRコードを、見開きページの左上に統一して掲載することで、生徒や指導者の利用の便宜が図られている。</li> <li>・図版の釈文や読みの中で、長文のものについてはQRコードでアクセスして参照するようにし、見やすさやわかりやすさに配慮している。</li> </ul>
印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</li> <li>* 環境保全や生徒の多様な特性に配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図版は、原本に迫る臨場感で、美しく鮮明に印刷されていて、文字の視認性を重視した細いゴシック体フォントを使用し、紙面には適度な余白が確保されている。</li> <li>・ノドの開きが大きい製本と、戻りの少ないしなやかで軽量に仕上がる紙が使用されている。</li> <li>・表紙にポリプロピレンフィルム加工を施すことで、強度に配慮されている。</li> </ul>
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特色。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅲの学習に必要な表現・鑑賞のための学習材が系統的・段階的に取り上げられている。</li> <li>・表現と鑑賞それぞれの学習の広げ方、深め方がていねいに記述されている。</li> <li>・判型を生かした迫力ある紙面、鮮明で美しい図版、により、知識・技能の習得からその活用まで、充実した学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>

## 既刊『書Ⅲ』



[書Ⅲ 702] A4判 94ページ

### 学びの道しるべ



ともに考え、ともに学ぶゾウとフクロウのガイド役です。

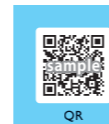
P000

リファレンスマーク

本書の中の参照ページを示しています。

#### QR QRマーク

QRコードでアクセスしたwebページに、美術館・博物館のホームページへのリンクや、作品の釈文・読みなどの情報が掲載されていることを示すマークです。鑑賞や臨書、創作など、さまざまな学習場面で参照しましょう。



#### QRコード

学習に役立つ情報をwebサイトで見ることができます。

#### 『書Ⅲ』に新たに加わった機能

教科書掲載の古典や名筆の中で、作品全体を掲載しているものがいくつかあります。それらの釈文や読みは、長文であるため、教科書の紙面に掲載すると、文字が小さくなり読みづらいので、QRコードでアクセスして見られるようにしました。ぜひ活用ください。

## 『書Ⅱ』 検討の観点と内容の特色

項目	観点	特色等
内容の選択・程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習指導要領の教科の目標を達成するため必要な教材が適切に用意されているか。</li> <li>* 基礎的・基本的事項の理解や習得のため適切な配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『書Ⅰ』『書Ⅰプライマリーブック』二冊の教科書の学習を受け、表現と鑑賞の能力をバランスよく高め、創造的な活動が展開できるような学習材が十分に用意されている。また、巻末資料編に、近代から現代の書の流れと特徴を知ることができる作品を豊富に掲載することで、生涯にわたり書を愛好する心情を育てることに配慮されている。</li> <li>・『書Ⅰプライマリーブック』同様の単元「書Ⅱプライマリー」を冒頭に設けることで、基礎・基本的な内容を効率よく身に付けることができるように配慮されている。</li> </ul>
組織・配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 内容の組織・配列は、学習指導を有効に進められるように考慮されているか。</li> <li>* 分量は学習指導を有効に進められるように考慮され、精選されているか。</li> <li>* 弾力的な取り扱いに対する配慮がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書Ⅱプライマリー」は、書の伝統に基づく表現の基礎的な技能を身に付け、意図に基づいて構想し表現を工夫することができる構成となっている。</li> <li>・「漢字の書」「仮名の書」は、時代や書体を代表する古典により、段階的に学習を進められるように工夫されている。また、それぞれの分野が適切な分量で組織・配列され、表現と鑑賞の学習を相互に関連を図りながら進められるように配慮されている。</li> <li>・「漢字仮名交じりの書」は、言葉と表現の関係を意識しながら、漢字や仮名の古典や名筆を参考にしたり、用具・用材の扱い方や紙面構成を工夫するなどして、自身の作品を制作するような構成になっている。</li> </ul>
表記・表現及び指導に対する工夫や配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学習意欲を高めるための配慮がされているか。</li> <li>* 用語・記号の取り上げ方や記述の仕方は適切か。</li> <li>* 生徒の自学自習への配慮や工夫がされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現・鑑賞の往還学習が可能な「書Ⅱプライマリー」「私を表現へと導く 書」「資料 書の文化」の各単元が、知識と技能の習得の意欲を喚起するような、簡潔でわかりやすい表現と構成になっている。</li> <li>・領域や書体ごとに付したインデックス、往還を補助するマーク、親しみやすいイラストの活用、よく練られた単元のタイトルや解説の言葉・表現など、生徒の理解しやすさと指導者の利便性の双方に配慮されている。</li> <li>・ICTを活用するためのQRコードを、見開きページの左上に統一して掲載することで、生徒や指導者の利用の便宜が図られている。</li> </ul>
印刷・造本上の配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 印刷の鮮明さ、活字の大きさ、行間、製本などは適切か。</li> <li>* 環境保全や生徒の多様な特性に配慮がなされているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図版は、原本に迫る臨場感で、美しく鮮明に印刷されていて、文字の視認性を重視した細いゴシック体フォントを使用し、紙面には適度な余白が確保されている。</li> <li>・ノドの開きが大きい製本と、戻りの少ないしなやかで軽量に仕上がる紙が使用されている。</li> <li>・表紙にポリプロピレンフィルム加工を施すことで、強度に配慮されている。</li> </ul>
総合所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 上記観点から見た、全体的・総合的な当教科書の特色。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書道Ⅱの学習に必要な表現・鑑賞のための学習材が系統的・段階的に取り上げられている。</li> <li>・表現と鑑賞の往還学習のためのマークを付すことで、学習の深化と発展に配慮されている。</li> <li>・判型を生かした迫力ある紙面、鮮明で美しい図版、活用しやすい折り込みページの配置により、知識・技能の習得からその活用まで、充実した学習が展開できるように工夫されている。</li> </ul>

## 既刊『書Ⅱ』



[書Ⅱ 702] A4判 134ページ

### 学びの道しるべ



ともに考え、ともに学ぶトビとカモです。



考えて見るマーク

マナビトビとワカルカモと一緒に、考えながら鑑賞するページです。



深めて知るマーク (発展学習)

P000

リファレンスマーク

本書の中の参照ページを示しています。

QR QRマーク

QRコードでアクセスしたwebページに、情報が掲載されているものです。



QRコード

学習に役立つ情報をwebサイトで見ることができます。

## ◎令和8年度版 『書 I』 著作編集関係者

### 【著作者】

澤田 雅弘 大東文化大学名誉教授 群馬大学名誉教授  
辻元 大雲 書家 書道芸術院顧問  
土橋 靖子 書家 日展理事  
名尻耶 明 筆の里工房副館長  
福井 淳哉 帝京大学准教授  
松尾 治 専修大学准教授  
荒井 一浩 大東文化大学講師 前東京学芸大学附属高等学校教諭  
大野 幸子 桜蔭中学校高等学校講師  
加藤真太郎 愛知県立愛知商業高等学校教諭  
後藤 浩 千葉県立成田国際高等学校教諭  
五月女章子 栃木県立宇都宮高等学校教諭

### 【執筆協力者】

高橋 智紀 國學院大学講師 栃木県立学悠館高等学校講師

### 【顧問】

關 正人 篆刻家 日展会員

### 【編集協力者】

稲村 龍谷 篆刻家 日展会員  
早川 忠文 清秘蔵  
日野 楠雄 大東文化大学講師

### 【表紙・本文デザイン】

成澤 豪 成澤 宏美 (なかよし図工室)

### 【表紙写真撮影】

興村 憲彦

### 【写真・映像撮影】

坂上 俊彦 (東京フォトアーガス)  
進藤 丈夫 (ジョブナ)  
谷山真一郎

### 【イラスト】

谷山 彩子

本資料は、一般社団法人教科書協会  
「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。

